

[総論～本書のエッセンス]

現代医学は根本から間違い
というより、故意のウソ

有用なのは、「緊急処置や身体の傷に対する外科的手術」のみ

本当は何かあなたを
病気にするのか？

あなたが病気について
知っていると思っていたこと
すべてが間違いの理由

上



ドーン・レスター&
デビッド・パーカー著
字幕大王 訳
中村篤史 (ナカムラツクリニク院長) 推薦

本当は何かあなたを
病気にするのか？

あなたが病気について
知っていると思っていたこと
すべてが間違いの理由

下



ドーン・レスター&
デビッド・パーカー著
字幕大王 訳
中村篤史 (ナカムラツクリニク院長) 推薦

問題の真の解決は
根本原因に
取り組むもの
だけである



「本当は何があなたを病気にするのか？」 第6章より
ドーン・レスター&デビッド・パーカー



医学界は「病気」の本質と原因の調査に失敗し
致命的欠陥を持つ「細菌論」への固執もあいまり
病気の予防や治療の有効な方法を提供できない

第8章（下巻）より

現在も同じ18世紀のヴォルテールの言葉

- 医師とは、
その知識があまりない薬を、
それ以上にわからない病気を治すために、
何一つわからない人間というものに
処方する者である

仏の哲学者、作家、文学者、歴史家
1694-1778年



- 医学界が流布する病気情報は、実質上ほぼすべて誤りである。その理由は、基盤となる考えや理論の根本的な欠陥にある。→（本当は故意にやっている）
- これらの考えや理論の欠陥性により、ヴォルテールの言葉が、「現代医療」として知られる21世紀の医療システムにも適用できる。
- これは、薬、病気、人間の身体についての貧弱なレベルの知識に基づき運営され続けるシステムである。

本書の概要

現代医学が誤りを続ける理由（私なりに）

- 主には、ありもしない感染症の恐怖によって製薬業界が大儲けできる
- 病気の本当の理由を認めれば、化学工業、食品工業、電気通信産業等が儲けられなくなる。これらは病気原因の毒を大量に販売あるいは排出して儲けている
- 「現代医学」とは、これらの強者が儲けるための大衆洗脳にすぎない
- 医者・学者も洗脳済。論文など読まず、検証もしない。教えられたことを行い、教えられた通りに解釈するだけ

つまりは。。。(私なりに)

- 既得権益の都合により、大衆から真実が隠され、医学が捻じ曲げられている
- 各業界や学术界のみならず、国際機関、各国政府も言いなりにウソを推進している
- 最終目的は人類の支配。もちろんこれには、IT技術も大きな役割を持つ

人類全体の支配が可能なIT技術が出現した
中国監視社会が好例

実際の病気の原因は四つ（詳細は下巻）

- 栄養不良（特別な意味があるので注意）
- 毒物（薬、ワクチンも含まれる）
- 電磁放射（電磁波と放射能）
- ストレス（長期にわたるもの）

「既得権益」は、これらを隠しておきたい

「感染症」は存在しない 病気の原因ではない

- 細菌 (germ、「悪い」バクテリアとウイルスの総称) が病気の原因と証明されたことは人類史上一度もない
- いかなるウイルスであれ、存在が証明されたことはない

「既得権益」には、病気が「細菌感染」
によるものとしておきたい

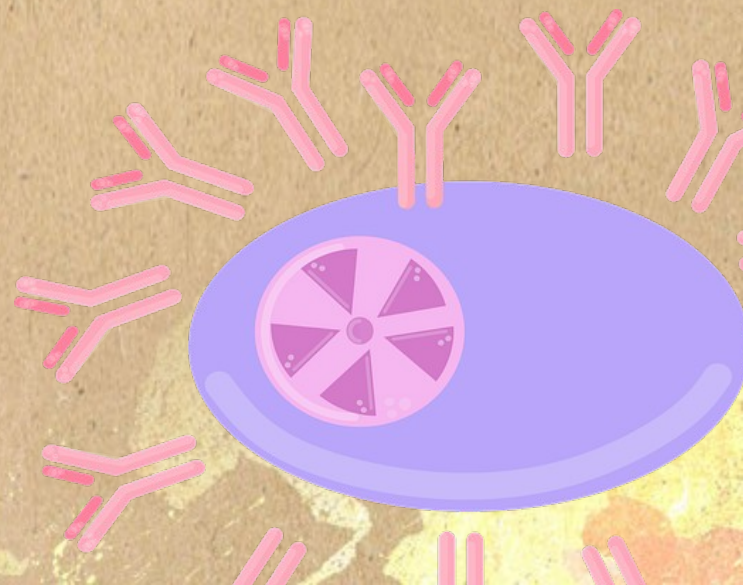
また、感染症と決めつけることで、個別の「病
気」の真の原因に到達できない



免疫と抗体は存在しない

- 細菌は病気の原因ではないため「免疫」は存在しない
- 身体にあるのは、「維持と修復」のシステムのみ
- グロブリン(抗体と誤って呼ばれるもの)は存在するが、細菌を殺すためではなく、細胞の傷を修復するため

「既得権益」は、「免疫を増強して
病気に打ち勝てる」としておきたい



だから、自己免疫疾患もウソ(下巻)

- 身体が自分自身を異物として認識して攻撃するというが、そもそも免疫など存在しないのでウソ
- 「自己免疫疾患」の原因は毒物と薬物

検査はウソ

- 多くの病気で抗体検査を行うが、何の意味もない。
（「細菌と闘う抗体」がウソなので）
- 特に、存在しない病気（エイズなど）で間違いにも陽性とされ、
人々が治療として悲惨な目にあっている

インチキなPCRに限らない
すべての抗体検査はウソ



すべてのワクチンは百害あって一利無し

- 悪い「細菌」も、免疫も抗体も存在しない。
- すべてのワクチンには何の意味も無い。ただの毒物



毒物と電磁放射が 人間の健康にとって最大の脅威

- 「毒物」には薬とワクチンを含む



「既得権益」は、これらが大事なことないとしておきたい

個別の病気実体は存在しない

- 「ある種類の病気の実体が身体にとりついて攻撃する」という間違い
- WHOの国際疾病分類(ICD)による数千種類の病気
 - － 狂犬病:A82
 - － HIV感染症:B20～B24
- 病気の症状で見分けることになっている

「この病気にかかった」というのは間違い



医学界による病気の誤認識や 病名の変更と再定義

- 人類史上、ハンセン病、梅毒、ポリオ、天然痘などの病気があったが、その描写は、現代で見られる症状とは似ても似つかないものがある。つまり、病名はかなり適当
- 都合が悪くなると、適当な病名をでっちあげる。ポリオワクチン接種後のポリオを急性弛緩性麻痺（AFP）とするなど

診断もいい加減、病名もいい加減
都合によってコロコロ変わる

少量でも毒は毒

- 16世紀のパラケルススの誤りが未だに世界を支配している
 - 「この程度なら害ではない」と、薬として毒物を使う間違い
 - 「この程度なら害ではない」と、食物に化学物質を使う間違い



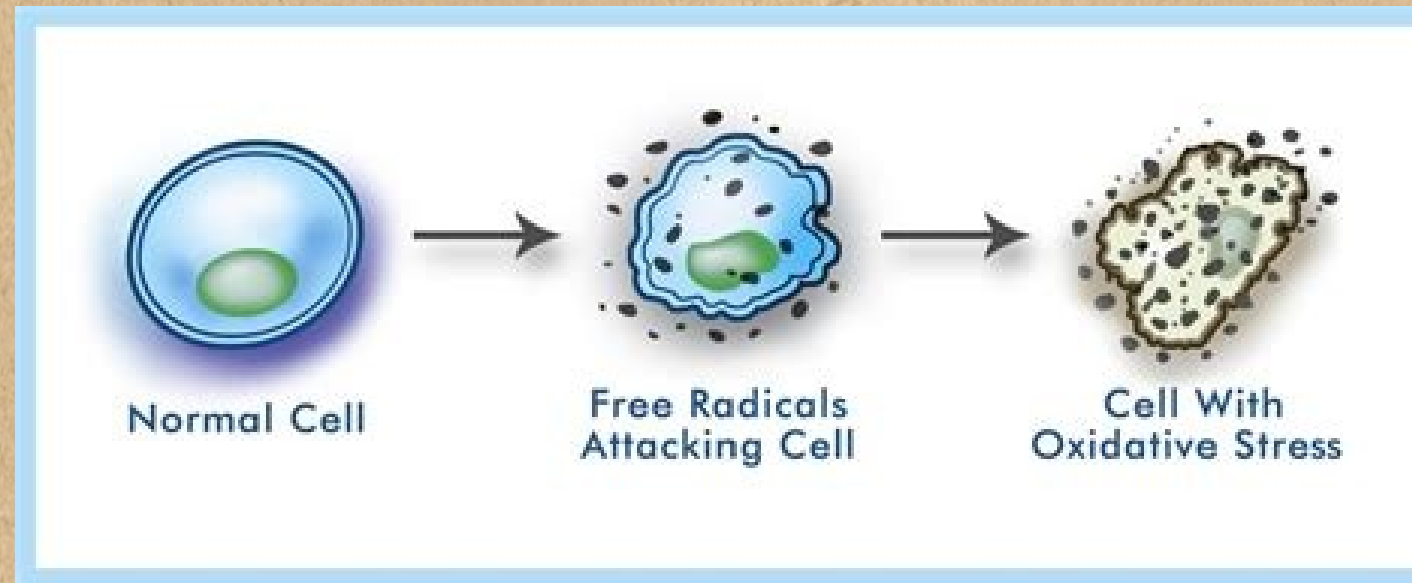
医療業界、食品業界の既得権益
にとって都合がよい
この言い訳で我々は毒を取り込んでいる

毒性の評価は無いと同じ

- 多くの化学物質が全く評価されていない
- 評価されている化学物質、他化学物質との「相乗効果」は一切評価されていない。一般には毒性が増す
- そもそも「毒は毒」。量によって変わるのは影響の程度だけ

ほぼすべての病気に共通する要素： フリーラジカルによる酸化ストレス

- 毒物・電磁波・精神的ストレスによってフリーラジカルが発生。
この酸化ストレスにより細胞、組織、臓器がダメージを受ける
- 栄養不良により、これに対抗する抗酸化物質が不足





Antioxidant



Free radical

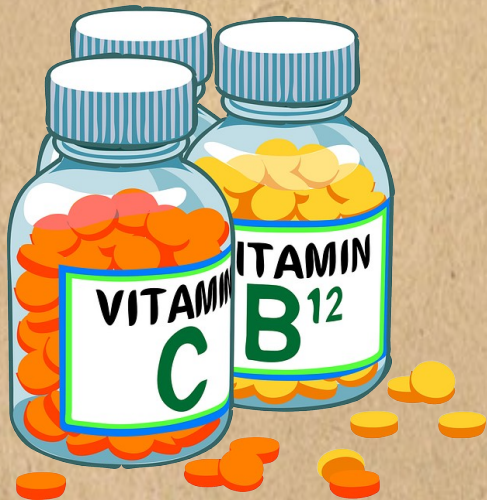


Healthy cell

病気を考えるうえの
最重要キーワードは
「細菌」ではなく「酸化」

「岩石ミネラル」は吸収できない(下巻)

- 「サプリメント」は無意味
身体が利用できるのは「有機塩」の形のものだけ
- 天然塩に含まれる「ミネラル」でさえ無意味



身体には栄養素が必要だが
食物から摂取する必要がある
特に植物
そして、酸化ストレスに対抗する抗酸化物質
がとても重要

医学界による病気の説明とその実際

- 感染症:これこれのバクテリアやウイルスが原因
→無意味で有害な抗生物質や抗ウイルス剤を処方する
- 非感染症:ほぼすべて「原因は良くわかっていない」
→原因不明なのに、治療と称して毒物を処方
- →ほとんどの病気は、栄養不足・毒物・電磁波が原因とわかっている

医学界の説明はどれも大ウソ

では、病気が「移る」のはなぜなのか？

- この本には明確な説明はない。いくつかのヒントがあるだけ（ここが明確になれば、細菌論は跡形もなくなる）
- 「移った」経験は確かにあるが、全く移らなかった経験もあるはず
- 1918年インフルエンザ（スペイン風邪）の時に、感染実験が行われたが、一人も移らなかった

グローバル化の目的(下巻)

- 2030アジェンダ、SDGsの推進
ー「すべての人に薬とワクチンを」など
- 完全かつ成功裏に実施されれば、必然的にすべてのシステムの完全な「調和」になり、最終的には単一の中央「当局」が支配する単一の「グローバル」システムに統合されることになるが、それは「既得権益」に影響され、支配されるものである。

世界人類の支配

持続可能な開発目標(下巻)

- SDGs (Sustainable Development Goals) と呼ばれるもの
- 「持続可能」にしたいのは、開発。つまり、経済、金儲け。
- 人々の健康も純粋にこの観点からとらえられている。つまり、国にとっての経済的有用性である。経済に貢献しない者は不要という思想

国とは既得権益を代表するもの

支配とプロパガンダ(下巻)

- 医療教育・研究が支配され、医者・学者が洗脳される
- メディアが支配され、大衆に欺瞞が流布される
- 慈善団体も支配下に置かれている

この本の内容(上下巻)を1ページで

- 支配層は、特に感染症の恐怖を煽り、人々をコントロールするため、歴史的にも現在もウソをつき続けている
- 本当の原因(毒物、電磁波)には目を向けさせないよう、「細菌」のせいにするケースが極めて多い
- 非感染症においても、見当違いな原因にしたり、あるいは原因不明とする。
- これらの治療薬は効果がなく、かえって病気になる。
- これらのウソをグローバルに流布し、国連の下、全人類をコントロールしようとする
- 医学界、メディア、第三セクターなどは既に支配下にある。医者・学者は完全洗脳済み